

うつ病診療のトピックス

特集にあたって	北里大学医学部精神科主任教授	宮岡 等
うつ状態：原因の考え方と対応	北里大学医学部精神科主任教授	宮岡 等
うつ病診断に役立つ日が近いバイオマーカー	愛媛大学大学院医学系研究科精神神経科学准教授	伊賀 淳一
抗うつ薬が本当に効くうつ病	杏林大学医学部精神神経科学講師	坪井 貴嗣
認知行動療法の適応となるうつ状態	医療法人和楽会なごやメンタルクリニック院長	原井 宏明
職域のうつ病：休んで治すか、働きながら治すか	医療法人社団弘富会神田東クリニック院長(産業医療統括)	高野 知樹
うつ病と認知症の鑑別と合併を考えた適切な治療	兵庫県立ひょうごこころの医療センター医長	小田 陽彦
子どものうつ病をどう考えるか	国立国際医療研究センター国府台病院児童精神科診療科長	宇佐美政英
プライマリケアでうつ病をどこまでみるか	三重大学大学院医学系研究科臨床医学系講座家庭医療学分野教授	竹村 洋典
うつ病診療における地域連携(連繋)の可能性	北里大学医学部精神科診療講師	大石 智
うつ病はなぜ増えたか	パナソニック健康管理センター(東京)メンタルヘルス科東京担当部長	富高辰一郎

編集後記

本号の特集は「肥満症とメタボリックシンドローム」。古代ギリシャの医聖ヒポクラテスは過食と病気の関係、肥満と突然死の関係について記述しているという。肥満研究においては我が国が世界に先駆けて、内臓脂肪型肥満を提唱して30年、アディポサイトカイン概念を提唱して20年が経過し、この間世界をリードしてきたことは周知のごとくである。肥満に伴って、糖尿病、高血圧、メタボリックシンドローム、骨粗鬆症等が頻度を増す事が知られているが、逆に高齢期以降に増えてくる認知症、サルコペニア、フレイル、誤嚥性肺炎などは痩せや低栄養

が死亡リスクとして重要となり、体重を落とさない事が長寿に繋がるとのエビデンスも示されるようになってきた。高齢社会を迎えた現代の先進諸国では、小太りは正常体重者に比べて、総死亡率が低いという疫学調査も示されるようになっており、BMIと死亡率の関係は時代とともに変わってきているということだろう。肥満と老化の関係、肥満の程度のみを重視した対策ではなく、減量が必要な肥満と必要でない肥満を区別するという考え方に基づく治療概念などを含め、今まで我が国がリードしてきた肥満症の研究・臨床の更なる進歩に期待したい。(T)

Pharma Medica

ファルマ

メディカ

Vol.35 No.11 2017. 11

2017年11月20日発行

定 価 (本体1,700円+税:送料実費)

年間購読 (本体20,400円+税:送料当社負担)

発行者 松岡 光明

発行所 **メデカルレビュー社**

〒541-0046 大阪市中央区平野町3-2-8 淀屋橋MIビル
TEL 06-6223-1468(代)

Pharma Medica編集部 TEL 06-6223-1556

販売部 TEL 03-3835-3049 FAX 03-3835-3075
e-mail sale@m-review.co.jp

〒113-0034 東京都文京区湯島3-19-11 湯島ファーストビル
TEL 03-3835-3041(代)

振替口座 大阪6-307302

http://www.m-review.co.jp

印刷 株式会社中島弘文堂印刷所

広告取扱店 メディミクスエージェンシー TEL 080-5421-3501

・本誌に掲載された著作物の複写・複製・転載・翻訳・データベースへの取り込みおよび送信(送信可能化権を含む)・上映・譲渡に関する許諾権は(株)メデカルレビュー社が保有しています。

・**JCOPY** <(社)出版者著作権管理機構 委託出版物>

・本誌の無断複写は著作権法上での例外を除き禁じられています。複写される場合は、そのつど事前に(社)出版者著作権管理機構(TEL 03-3513-6969, FAX 03-3513-6979, e-mailinfo@jcopy.or.jp)の許諾を得てください。

・乱丁・落丁の際はお取り替えいたします。